（別紙2）　　平成　25　年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業所番号 | 1870101167 | | |
| 法人名 | 公益財団法人　松原病院 | | |
| 事業所名 | グループホーム　のどか | | |
| 所在地 | 福井県福井市文京2丁目6－10 | | |
| 自己評価作成日 | 平成25年9月20日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

| | |
|---|---|
| 基本情報リンク先 | |

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | |
|---|---|
| 評価機関名 | 社会福祉法人　福井県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 福井県福井市光陽2丁目3番22号 |
| 訪問調査日 | 平成25年10月10日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様一人ひとりが、当たり前のごく普通の生活を送れるように支援しています。一緒に食事の用意をしたり、掃除を行ったり、あるいは外出やレクリエーションを通して、喜びや楽しさを共有したり、苦しさや悲しみは、思いを分かち合えるようにと、心がけています。又、一人ひとりの持っている力が発揮出来るように、やりたい事・挑戦したい事が続けられるようにと努めています。毎年開いているホーム独自のバザーは、少しずつ訪れる方も増えてきており、今年度より公民館祭りに、利用者様の手作り品の展示をする予定をしており、地域との交流をより一層深めていきたいと思っています。職員の資質向上を目指し、各種研修には計画を立てて参加しており、資格習得も応援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当事業所は福井市中心市街地の北部にあり、3階建ての建物の2階にある。周辺には中学校や高校、大学、商店街をはじめ、図書館、美術館などの文化的な社会資源もある。日々の運営に重要な役割を果たしている運営推進会議には、自治会長、老人会長、地域包括支援センター職員などの委員参加に加えて、体験実習の生徒やボランティアの方々にも参加してもらい、意見やアイディアを得て運営に活かしている。また、今年度の法人の目標に「一歩前進」を掲げ、公民館まつりに初めて利用者の作品を展示し地域交流がより深まるよう努力している。なお、利用者支援では利用者の生活の実感を重視し、魚の骨取りや居間・居室の掃除、季節の料理、洗濯物たたみなど既存の能力を活かしながら過剰な支援にならないよう注意している。継続的な課題である「重度化・終末介護」についても、家族に現況を丁寧に説明し報告すると共にその実現に向け継続して検討している。

## V．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| | 項　目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいの |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいの |
| | | | 4. ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38） | ○ | 1. 毎日ある |
| | | | 2. 数日に1回程度ある |
| | | | 3. たまにある |
| | | | 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | ○ | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |

| | 項　目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19） | ○ | 1. ほぼ全ての家族と |
| | | | 2. 家族の2/3くらいと |
| | | | 3. 家族の1/3くらいと |
| | | | 4. ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20） | | 1. ほぼ毎日のように |
| | | ○ | 2. 数日に1回程度 |
| | | | 3. たまに |
| | | | 4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4） | | 1. 大いに増えている |
| | | ○ | 2. 少しずつ増えている |
| | | | 3. あまり増えていない |
| | | | 4. 全くいない |
| 66 | 職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12） | ○ | 1. ほぼ全ての職員が |
| | | | 2. 職員の2/3くらいが |
| | | | 3. 職員の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が |
| | | | 2. 家族等の2/3くらいが |
| | | | 3. 家族等の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどできていない |

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅰ.理念に基づく運営** | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 母体法人の理念を基に、職員間で意見を出し合い、ホーム独自のテーマや目標を決め、さらに個人目標にも落とし込み、実践に活かせる様にしている。職員は、常日頃から理念実践を念頭において日々のケアに取り組んでいる。 | 事業所理念に基づいた介護の実践を組織的に進めるため、職員一人ひとりが理念を踏まえた個別目標を設け振り返りを義務付けている。また、職員が互いの目標とその実践を確認出来るよう職員の目標一覧表を作成している。 | 積極的に取り組もうとする姿勢が伝わってくるが、年度末のみの振り返りに留まらず、年度途中でも振り返りや評価を実施して実践状況や学び、気づきを振り返る機会を設けるなど、更に理念が深まる取り組みに期待したい。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域のお祭りや、ホーム独自のバザー、運営推進会議や市の防災訓練等にも参加して、地域と馴染みの関係になるように努めている。商店街や神社、図書館廻りは、日々の散歩コースにもなっている。公民館祭りに利用者様の作品も展示する予定をしている | 法人が町内会に加入しており、地区の行事や防災訓練に継続参加している。また、地域住民も対象とした趣味の講座を開くほか、今年は初めて公民館まつりに利用者の作品を展示するなど交流が深まるよう努力している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域交流会や運営推進会議を通して認知症の方々への理解を得られるように発信している。<br>又、運営推進会議において認知症予防教室の開催も行っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議出席者からは、毎回貴重な意見や提案を頂いている。出された意見は、サービスの改善や質の向上にむけて協議実践の参考にさせていただている。どのような話し合いが行われたのか記載された議事録は、職員にも目を通してもらっている。 | 家族代表、地域住民、地域包括支援センター職員の参加を得て2か月毎に開催している。体験実習に来た中学生やボランティアを会議に加えて幅広く意見を集め、得られた意見をサービス向上に活かすとともに、事業所の取り組みや社会的役割を発信し、理解が深まるよう取組んでいる。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 包括支援センターの職員や、定期的に来られている介護相談員あるいは、市の担当者の方には相談等を通して関係性の構築に努めている。 | 地域包括支援センターおよび介護相談員との連携が図られ、事業所運営について協力関係が築かれている。市担当者とは電話での問い合わせや外部評価に関する目標達成計画を提出するなど連携に努めている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 研修や、勉強会を通して身体拘束の弊害については、全職員が理解をしているし、日中は鍵を掛けない暮らしの実践をしている。万が一に掛けなければならない時の為に、記録用紙の用意もしてある。家族会においては、鍵をかけないリスクについての話合いの場も設けている。 | 母体法人の新人研修や内部勉強会のテーマに設定し職員の理解を深めている。職員は言葉の拘束の弊害をよく理解しており、その応対からも浸透している様子が窺えた。また、事業所が2階にあり、止むを得ない理由がある時は安全面に配慮し、理由･時間を記録して玄関を施錠している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 母体病院や研修に参加し、虐待防止について職員は理解している。職員の発した言葉でも虐待に当たる事も承知しており、日々のケアでは細心の注意を払っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護や日常生活自立支援制度については、研修をしてきた職員が伝達講習を行っている。成年後見制度の必要な御家族には、パンフレットを用意したり、包括支援センターを紹介し活用できるように支援している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている | 契約時には、契約書及び重要事項説明書･運営規定を読み上げ説明し、疑問点がないかを確認し、理解･納得して頂いた上で契約の署名･捺印をいただいている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族とは面会時や、家族会を通して率直な意見を頂ける様に努めている。利用者からの要望は、希望･要望用紙に記入し、職員間で話し合い改善に反映させている。又、家族会において、利用者からの要望でどのような物が上がったのか話している。 | 面会をはじめ、運営推進会議や年2回の家族会の際に家族から意見を聞いたり、希望･意見用紙で意見を聞くなど家族の意見収集に努めている。なお、得られた意見は職員で話し合って運営に活かしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員会議や、運営会議を通して意見や提案は上司に聞いてもらい、改善へ向けてすすんでいる。職員間のコミュニケーションの中からでも意見が出てくるので、良い意見は取り入れ運営に反映させている。 | 日々の支援方法など運営についての職員の意見は「提案ノート」で聞き、得られた意見を検討し運営に反映している。なお、職員の人事や労務など管理的なことについての意見は法人の上層部まで伝わる仕組みとなっている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境･条件の整備に努めている | 個々の能力や、実績を活かして仕事に取り組めるように努めると共に、なんでも話し合える環境や雰囲気作りをしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員の力量は把握しており母体病院や、施設内、他機関の研修に参加するように働きかけている。実践者研修やリーダー研修には計画的に参加している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム連絡協議会に加入しており、協議会主催の勉強会にも参加している。定期的に行われている交流会にも参加し、得られた情報を基に質の向上へ繋げるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用前には必ずご本人と面談を行うようにして、安心感を持って貰える様努めている。入所初期には、環境変化により不安で一杯にならない様に、寄り添いと傾聴、･観察を行い、安心していただけるように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 利用前には家族と面談の場を設け、困りごとや要望の把握に努めている。利用されていた事業者からも情報を得て、信頼関係を築けるように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 面談時において、どのような支援が必要なのかよく聞き取り、その人に応じたケアを展開している。当事業所での対応が困難なときには他のサービス利用を含め柔軟に対応するように努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者と共に、互いに支えあう関係を持てるように努め、利用者の喜びや楽しみ、苦しみ、悲しみを共に感じあえる日々を過ごしている。家事や作業を一緒に行い、終わった時には感謝の言葉をかけている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族には、面会時や電話連絡で利用者の近況及び体調についての報告は蜜に行っている。家族と利用者の関係性が途切れず、築ける様に努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご本人の故郷や、これまで通っていた場所（美容院）へは継続して行ける様に家族の協力の下、支援している。友人や知り合いの方が面会時に来られた時にはゆっくり過ごして頂けるよう配慮し、継続して来て頂けるよう働きかけている。 | 利用者の友人、知人の訪問があり、家族にも連絡を取りながらなじみの関係が途絶えないよう支援している。また、利用者が入所前まで通っていた美容院へ外出するなど、利用者の希望を家族に伝え思いが叶うよう支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の関係性を考慮し、席決めをしたり、作業への参加をお願いしている。一見孤立しているように見えていても、お互いに声を掛け合う等利用者同士で気使いや、いたわり合っている場面を見かけている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人･家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 必要に応じて、電話等でその後の様子を尋ねている。御家族が元利用者と共に、ホームを訪ねて来て下さる事もある。 | | |
| **Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人の発した言葉や家族からの聞き取りを基に希望や意向を汲み取るように努めている。本人の言葉は記録に記載し、職員間で共有把握している。又、何気ない一言も聞き漏らさないように努め、意向に繋がるように努めている。 | 職員は日頃の関わりから、利用者の表情や声のトーンに注意して丁寧に応対し、関係性を深めながら意向や希望を把握するよう努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族の協力でセンター方式に落とし込んだり、利用していた事業所や看護記録藤から、様々な情報を把握できるように努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとりの毎日の記録や、一緒に過ごす中から現状や、身体状況の把握は職員全員が共有している。体調変化時は、特に気をつけている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | プランは、3ヶ月毎に見直しを行っている。アセスメントとカンファレンス意見用紙で家族･職員から気づきを含めた意見を盛り込んだ介護計画を作成している。状態の変化時には随時、計画の見直し等で対応している。 | 介護計画は3か月毎に見直しをしており、家族の意見や要望、職員の気づきを記載した希望･意見用紙とアセスメントを基に計画作成担当者と居室担当職員がケア会議で話し合って作成している。 | 利用者の思いに沿いながら現状に則しかつ家族に身近な介護計画となるよう、家族へのケア会議参加の働きかけも検討されたい。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践･結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 記録は個別化されおり、日勤帯･夜勤帯と解り易くなっている。様子や言葉、状態を記載してあり、記録を基にケアプラン実施状況表･モニタリング･評価へと繋げ、計画見直しの際に活かされている。情報は申し送り時等で共有している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 家族による病院受診や、買い物や外出が困難な時には、ホームで対応している。家族からの新たな希望やニーズがあった場合には、希望に添えるように柔軟に対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 近くの図書館や美術館を活用している。又、公園や神社･商店街には散歩や買い物に出かけている。近隣の消防署とは、訓練を通してホームの利用者の状態を把握してもらう事で、安全な暮らしの支援をしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所前からの馴染みのかかりつけ医が受診できるように支援している。受診時には、状態の報告をかかりつけ医に伝えて貰っている。状態変化時や緊急時には家族に連絡をし、適切な医療が受けられるように支援している。家族の対応が困難な時にはホームで対応している。 | 入所前からのかかりつけ医を継続して受診することができ、受診の際は同行や情報提供を含め家族の協力を得ている。なお、家族が対応出来ない時は職員が支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 同一館内にある訪問看護ステーションの方には、利用者の緊急時や状態変化時には、アドバイスや適切な処置、相談にのってもらっていっる。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院した際には、必要な情報をできるだけ早く入院先に提供している。又、面会に行き医療関係者との情報交換と共有に努め、利用者がと家族が不安なく治療に専念できるように支援している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時や、家族会で重度化した時の対応について個別に話し合っている。ホームのハード面で対応に厳しい面もあるが、家族からは「できるだけここでの生活が長く続けられるように願っている。」との声が上がっているので、十分に説明し、出来る限りの事はさせて頂こうと、職員一丸で取り組んでいる。 | 事業所の現況と事業所としてできることを家族に丁寧に説明している。家族から重度化時や終末介護についての要望があり、継続的に対応を検討している。 | 家族、事業所が意識を共有して話し合いを行っており、速やかな実現が望まれる。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 他機関や、消防署及び施設研修に参加し、応急手当や初期対応マニュアルも整備され、目に付く場所に設置されている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署立会いで利用者も参加しての訓練は年2回行い、その他に法人内での訓練も、今年度より2回行う予定。防災関連の研修にも参加しており、避難方法についても、職員は熟知している。自治会や、近隣の方にも協力の依頼をお願いしている。 | 火災訓練は、夜間想定を含め事業所で年2回、法人全体で年2回行っており、職員は避難時の役割や動きを理解している。また、近所6軒に緊急時の避難協力を依頼している。なお、地震、水害対策として地区訓練に参加するほか、福祉避難所の機能についても自主的に準備している。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援** | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者に掛ける言葉は、一人ひとりの能力に応じて言葉を選んで行っている。職員の声の大きさや語調、態度で利用者を傷つけないように日々、気を付けている。トイレ誘導時や入浴時には、プライバシーを損ねないように、配慮している。 | 職員は自身の表情や声のトーンに注意しながら、利用者の尊厳を傷つけないよう丁寧な声かけや応対に努めている。利用者の穏やかな表情や言葉のやりとりから、安心して暮らしている様子が見受けられた。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者が意向や希望、自己決定を行う際には職員は不用意な発言を控え、ゆっくりと待つ事を心がけている。又、幾つかの選択肢を用意し、自己決定できるように支援している。理解する事が困難な利用者には、出来るだけわかり易い言葉を選んで、話している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりの体調や状態を把握し、その人のペースに合わせるようにと努めている。利用者に希望を聞いて利用者本意になるように支援すると共に、職員ペースにならないよう日々気をつけている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 季節に合った服装が出来る様にアドバイスをしている。季節毎の衣類の入れ替えは、家族の協力の下行っている。家族の対応が困難な方にはホームで適切な衣類の購入も行っている。定期的な髪のカットを外部に依頼したり、家族と美容院へ出かける方もいる。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者に食材の下ごしらえや、簡単な調理、片付けを共に行う事で、食への関心を持って頂いている。旬の食材や、行事食あるいは、外食で好きな食べ物を選んでもらう事で、食事を楽しんでもらえるよう支援している。 | 利用者と職員が一緒に食材の買い出しや下ごしらえを行い、一緒に食事をして利用者が食事を楽しめるよう支援している。また、昆布巻きづくり、町内の夏祭り、敬老会、クリスマス会、正月料理など季節の行事食は利用者の大きな楽しみとなっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事と水分の摂取量は、毎日のチェック表に記録している。栄養や水分に不足がないように十分に気を付けている。一人ひとりの習慣や嗜好の把握に努め、残された時には無理にならない程度に声かけをおこない、食べてもらっている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 一人ひとりに、毎食後の歯磨きの声かけを行い、利用者の能力に合わせて声かけや、介助を行っている。就寝前は、義歯の管理も確実にしている。又、歯科診療も受け、治療や衛生士による指導も受けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表の活用により、一人ひとりの排泄パターンを把握している。ズボンの上げ下げや拭き取り等、自分で出来る事はしてもらい、声かけだけで出来る方等、利用者に応じた支援を行っている。 | 排泄チェック表を参考にしながら、一人ひとりへの声かけや見守りを基本に、職員が手を出しすぎないよう心がけて支援している。また、水分摂取にも注意し、利用者が自然排便できるよう努めている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 出来るだけ自然な排便が出来る様に、野菜や乳製品、十分な水分摂取に配慮し、体を動かす機会を設けている。又、必要な方には便秘予防の腹部マッサージも行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 週に3回の入浴日を設けているが、夏季等希望があった時には、個別に対応している。又、必要時にはシャワー浴などいつでもはいれるようになっている。10時から4時の間に個別でゆっくりと入浴を楽しめるように支援している。 | 入浴は週3回を基本としているが、夏場は希望すれば月曜日から金曜日まで毎日入れるようにしている。利用者が季節を感じながら入浴を楽しめるよう、菖蒲湯やゆず湯なども実施している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人ひとりの生活リズムや、日中の活動状況や、身体状況を見極め、安眠できるように支援している。お昼ねについては、夜間の安眠の妨げにならないよう、時間を限定し、職員の声かけにより起きてもらっている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方箋は個別に管理されており、変薬があった際には、日誌や記録に記載し、職員が周知できるようにしている。服薬の確認や、変薬による状態変化時には、すぐに主治医に連絡するように努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者一人ひとりの持てる力や、希望、生活歴を把握し、有する力が発揮できるよう役割を持っていただいたり、楽しめる提供物を用意している。定期的に外部のボランティアに依頼し、将棋なども楽しんでいる。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 体調や天候を考慮して、散歩や買い物に出かけている。ホームでのバスハイキングには、家族にも参加を依頼し楽しんでもらっている。職員と図書館や美術館も活用しているが、家族に本人の意向や希望を伝え、お墓参りや喫茶店、故郷や選挙投票にも出かけている。 | 日常的に近隣の図書館、商店街、美術館などに散歩や買い物に出かけ、その際に地域住民に挨拶等の言葉を交わして交流を深めている。個別的な外出は、家族に本人の要望を伝えて協力を依頼している。また、家族にも参加してもらい、温泉、墓参り、菊人形等にも出掛けている。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 希望のある方や管理できる方には、少額だが自分で管理してもらっている。買い物に行った際には、能力のある方には自分で払ってもらっている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話は何時でもかけられるようになっている。掛け方が解らない方には、職員が代行している。友人や家族からの電話がかかってきた時には、椅子に腰掛けてもらい、ゆっくりと話せるように支援している。手紙のやりとりをしている方とは、一緒にポストまで散歩しながら出しに行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用空間は、季節が感じられるような掲示物を飾っている。BGMで懐かしい音楽を流したり、強すぎる光が入ってこないようにロールブラインドで調節している。又、料理を作っている時の匂いもフロアに漂って来るので生活感にあふれている。 | 共有空間は採光良く、明るい開放的な空間となっている。職員は気温や光を適宜調整しながら、利用者が心地良く過ごせるよう配慮している。また、床は利用者の安全面に配慮し、クッション性のある素材でできている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 窓辺には肘掛け椅子があるので、外の様子や空が眺められるようにしてある。気の合う人とソファーに座ってテレビを楽しんだり、廊下にあるソファーで静かに過ごしてもらっている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族の協力の下、使い慣れた物や大切な物、あるいは好きな物や手作りの物、家族の写真等で自分らしく思い思いに居室を飾っている。 | 使い慣れた物や馴染みの物が持ち込まれ、それらを自由に配置して部屋を飾っており、その人の好みに応じた居心地の良い空間となっている。なお、居室の掃除は自分で行っている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | フロアや廊下、トイレ、浴室、脱衣所、和室への上がりかまち等には手摺が設置されており、安全に自力で歩行や移動が出来る様にしている。 | | |